

農作物技術情報 第7号 野菜

発行日 令和8年9月24日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 台風対策 排水対策と施設の保守点検を万全にしましょう。
- ◆ 果菜類（施設） トマトではかん水回数の調整などによる裂果防止、早朝換気によるゴーストスポットの発生防止、トマトキバガ対策の徹底に努めましょう。
- ◆ 果菜類（露地） キュウリホモプシス根腐病など重要病害の発生状況の確認（残さ診断）や振返りを行い、次年度へ向けた対策を検討しましょう。
- ◆ 葉茎菜類 雨よけほうれんそうは適切な温度管理と病害虫防除を徹底しましょう。
- ◆ 冬春野菜 寒じめほうれんそうは大雪への備えを万全にし、適期は種と適切な温度管理を徹底しましょう。促成アスパラガスは低温遭遇時間を目安にして根株の掘り取り時期を決めましょう。

1 生育概況

(1) 果菜類（施設）

- ・ きゅうり早熟長期作型は収穫終盤です。抑制作型の生育は概ね順調です。病害虫は、褐斑病、ウリノメイガが発生しています。
- ・ トマトは、雨よけ栽培の摘心が行われています。生育は概ね順調ですが、一部地域では日照不足により停滞気味です。病害虫は、灰色かび病やコナジラミ類、オオタバコガ、トマトキバガの発生がみられます。
- ・ ピーマンの生育は概ね順調ですが、一部地域では日照不足等により生育は停滞気味です。一部地域で赤果の発生がみられています。病害虫では、斑点病やアブラムシ類、アザミウマ類、タバコガ類の発生が継続しています。

(2) 果菜類（露地）

- ・ きゅうりは、草勢低下により曲がり果などがみられています。病害虫では、べと病、炭疽病、褐斑病やウリノメイガ、オオタバコガが発生しているほか、一部地域でハダニ類の発生が見られます。
- ・ ピーマンの生育は概ね順調ですが、一部では日照不足や気温の低下により停滞気味となっています。一部でひび果、肥大遅れによる赤果の発生が見られています。病害虫では、斑点病、炭疽病、タバコガ類の発生がみられます。

(3) 葉茎菜類

- ・ 雨よけほうれんそうの生育は、曇雨天の影響により、細めの株となっています。病害虫は、シロオビノメイガ、一部で萎凋病の発生がみられます。
- ・ 高冷地キャベツは降雨により生育が進み概ね順調ですが、収穫作業にやや遅れが見られます。高冷地レタスは概ね順調な生育です。病害虫は、キャベツはべと病、黒腐病、黒斑病は少発生、

オオタバコガ、ウワバ類が発生しています。レタスでは褐斑病、オオタバコガの発生がみられます。

- ・ ねぎは概ね順調な生育ですが、葉先枯れや天候不順による収穫遅れが一部で見られます。病害虫は、葉枯病、べと病、黒斑病、ネギアザミウマ、ネギハモグリバエの発生が見られます。

2 技術対策

(1) 台風対策

例年 10 月は台風の発生が多い時期になります。気象情報を確認し、状況に応じて**排水対策、施設の保守点検**など、事前事後の対策を徹底してください。具体的な技術対策は以下のとおりです。

- ・ ほ場周囲の**明きよの点検**と**排水口への接続状況を確認**し、スムーズな排水に努めます。
- ・ **ハウスバンドの締め直し**や**ハウスビニールの破れ部分の補修**を行います。
- ・ 収穫可能な果実は、**台風前に収穫**するようにします。
- ・ 被害後は、**被害茎葉や被害果を除去**し、**予防的に防除**を行います。

(2) 果菜類（施設）の管理

ア きゅうり

- ・ 早熟作型では、栽培が終盤となるため生育状況や収穫終了時期に応じた管理を行います。
- ・ 抑制作型では、日照時間が短くなるとともに気温の低下に伴う結露などにより病害の発生が懸念されることから、**ハウスを閉める時間が長くないよう**注意します。

側枝は、2～3 節で摘芯し、枝数や葉数を確保します（写真 1）。



写真 1 抑制きゅうりの整枝管理（例）

イ トマト

これからの時期は、既に着果している果実を確実に出荷に結び付けるために、**裂果や病害の発生を防ぐことが重要**です。

また、**トマトキバガ**の発生が増加するため対策を徹底してください。

- ・ 温度管理は、急激な気温の低下及び 14℃以下にならないよう**夜間の保温**を行います。循環扇などを利用し、ハウス内の空気を攪拌して病害の発生を抑えます。
- ・ かん水は、少量多回数を基本とし、**早朝の開始時間を遅らせる**とともに、気温や生育量に応じて**終了時間を早めて**根域の水分過剰を防ぎ、急激な吸水による裂果を防ぎます。
- ・ **早朝にハウスサイドを開ける**ことで日の出後の急激な気温上昇による**果実表面への結露を防止**します。果実表面の結露は、ゴーストスポットや裂果の発生を助長します。
- ・ 病害では、**葉かび病**や**灰色かび病**が発生しやすくなるので、防除を徹底してください。
- ・ トマトキバガ対策は、発生が疑われる場合は、耕種的防除や農薬散布による効果的な対策を実施してください。

ウ ピーマン

気温の低下とともに、果実の肥大が緩慢となりますので、**夜間の保温**による生育温度の確保に努めてください。

- ・ **最低気温が 16℃以下にならないよう**に夜間の保温を行います。
- ・ 出荷規格に適さない果実は、早めに摘除し、収穫果の肥大を促します。
- ・ 湿度上昇による病害発生を低減するために、**日中は少しでも換気**を行いハウス内の空気を動かしします。

- ・ 防除は、斑点病、灰色かび病、タバコガ類を中心に行います。

(3) 果菜類（露地）の管理

ア きゅうり

草勢の維持と病害虫対策の徹底により収穫期間の延長を図ります。

- ・ 強い摘芯は控え、アーチから飛び出した弱い芯を指先で摘む程度に行います。
- ・ 摘葉は病葉・古葉・黄化葉などを中心に行い、追肥は、栽培終了時期を見越して行います。
- ・ 防除は、農薬の使用回数（成分の総使用回数を含む）に注意し、薬剤を選択してください。
- ・ 収穫残さに付着している病原菌は、翌年の発生源となるので、栽培終了後は速やかにほ場外へ持ち出し、できる限りほ場に残さないように片付け、次年度に向け資材消毒を実施してください。
- ・ 栽培終了後、根をそのままにすると、キュウリホモプシス根腐病が増える可能性があるため、きゅうりの根は速やかに抜き取り、キュウリホモプシス根腐病（写真2）の発生の有無を確認してください。
- ・ 疑わしい症状が見られた場合や、次年度の作付けに不安がある場合は、最寄りの農業改良普及センターなどに連絡し、残さ診断を受けてください。



写真2 ホモプシス根腐病による根の状態
（左上：200倍に拡大 右：黒変症状）

イ ピーマン

この時期は、病害や腐敗果、赤果の発生が増加するおそれがあるので、**防除や果実の選別を徹底**してください。

- ・ 斑点病、斑点細菌病の防除を中心として、降雨前後に薬剤散布を行い、発生低減を図ります。
- ・ 腐敗の原因になるため、被害果（タバコガ類など）や傷果の選別を徹底します。
- ・ 赤果の混入防止のため、果実の色をしっかり確認します（写真3）。
- ・ 果実表面に水分がないよう、出荷時の果実は乾いた状態とします。



写真3 市場での赤果の混入状況

(4) 葉茎菜類の管理

ア 雨よけほうれんそう

- ・ 年内収穫に向け、もう1作は種することを検討します。低温伸長性の良い品種を選択し、ハウスのこまめな開閉などによる温度管理を適切に行います。

- ・ ハウスを閉める時間が長くなると、**べと病**の発生が多くなります。べと病抵抗性品種であっても、日中は換気に努めるとともに、予防防除を行ってください。
- ・ **ハウレンソウケナガコナダニ**の被害が多くなる時期です。今年被害があったほ場では、土壌処理剤と茎葉散布剤を併用します。茎葉散布剤は薬液が**芯葉**まで届くように丁寧に散布してください。
- ・ シロオビノメイガの発生がみられます。幼虫は、初め**芯葉の隙間**に入り込んで見つけにくいので、注意して観察し、防除が遅れないようにしてください(写真4)。



写真4 シロオビノメイガによる食害

イ キャベツ・レタス

- ・ 県北高冷地の収穫は終盤です。病害により収穫できなかった株、使い終わったマルチを**適切に処理**します。

ウ ねぎ

台風などの降雨によりほ場作業が出来ない日も多くなるため、**ゆとりのある作業計画**により適期収穫に努めてください。

- ・ 10月収穫の**最終培土**は、**収穫の30日前**を目安に、軟白部の伸長肥大を確認しながら行います。
- ・ 薬剤防除は、例年の防除体系に加え、発生が多い**黒斑病**、**葉枯病**も考慮して行います。また、農薬散布は収穫前日数に注意して適正に行います。
- ・ 次年度に向け、収穫終了ほ場から土壌診断や堆肥の施用を行います。

(5) 冬春野菜の管理

ア 寒じめほうれんそう

- ・ 冬期間の大雪によるパイプハウスの倒壊を防止するため、寒じめほうれんそうを作付けするハウスは補強用支柱や筋交いを設置するなどの**補強対策**を講じます。また、作付けするハウスは1棟おきにして、作付けしないハウスはビニールを外し、**除雪しやすい環境**を整えます。
- ・ ハウス栽培では9月下旬～10月中旬が**は種**時期です。地域により気象条件が異なるので、品種特性に合わせて**適期には種**します。
- ・ は種後の温度管理は、過剰に保温すると生育が進みすぎ、温度が低すぎると生育が大幅に遅れます。本県の寒じめほうれんそうの収穫期間は12月～翌年2月となるので、**生育ステージに応じた適切な温度管理**を行ってください。

イ 促成アスパラガス

- ・ 気温の低下とともに、**地下部への養分転流**が進む時期です。台風による倒伏などで、茎葉が傷まないよう管理します。
- ・ 根株の極端な早掘りは伏せ込み後の収量低下につながるので、**低温遭遇時間**（5℃以下の積算遭遇時間90時間以上）を目安に、掘り取り時期を決定します。

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- 1 クマに遭遇しないために
 - ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する。
 - ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール
- 2 クマを寄せ付けない
 - ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する。
- 3 出会ったときの行動
 - ・ 背を向けて走って逃げない
 - ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 4 襲われそうになったら...
 - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

次号は10月29日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**「これくらい…」 少しの油断が事故
のもと 初心忘れず安全作業**

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。